

かき稚貝の安定確保で冬の味覚も一安心

～ 餌をたっぷり食べさせることで幼生の生残率を向上 ～



ホタテガイ殻に採苗されたカキ稚貝

連携機関 | 産業総合研究所中国センター, 広島市農林水産振興センター
研究期間 | 平成17～19年度[開発研究]

技術支援のきっかけ

- ◆ ここ20年余りの広島湾のかき採苗(稚貝の確保)では、養殖形態の変化や地球温暖化に伴う気候変動による不調が頻発し、特に平成26年は必要量の16%しか稚貝を確保できず、広島かき産業の存続にかかわる大問題となりました。
- ◆ そこで、平成17～19年度に開発していた採苗対策技術を、関係機関とともにかき業界に提案しました。

技術支援の内容

- ◆ 研究成果をもとに、採苗不調の主因を餌の植物プランクトンと幼生の分布のずれによる餌不足と予想し、シミュレーションモデルで幼生の動きを再現しました。その結果を基に、幼生が餌を十分に食べて生き残るのに必要な産卵親貝の配置と規模を、広島湾奥部に筏135台と算出していました(図1～3)。
- ◆ 平成27年には県水産課や関係市町と連携して業界に提案し、ほぼ研究成果どおりの筏の配置(図4)を実現した結果、養殖に必要な数の稚貝が採苗され、冬の味覚「かき」を守ることができました。

餌と幼生の分布域が一致

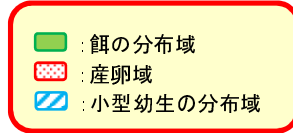


図1 稚貝が100%確保できた時期の産卵域と幼生の分布

餌と幼生の分布域がかい離



図2 採苗不調の時期の産卵域と幼生の分布



開発研究

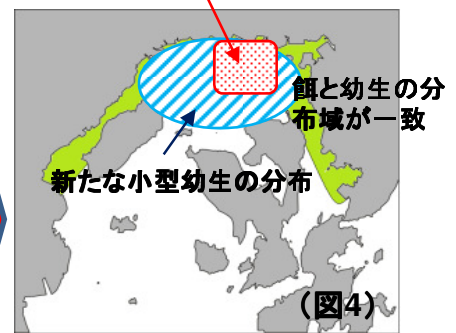
幼生分布のシミュレーションと産卵筏の配置・数の算出



広島湾奥部に135台の産卵筏が必要

(図3)

新たな産卵用筏の配置



H27年は採苗率100%以上を達成 !!

技術支援の活用場面

- ◆ 今後も取り組み結果をフィードバックしながら産卵用筏の配置による安定採苗に協力し、かき業界を支援します。

問い合わせ先 | 水産海洋技術センター 技術支援部 | TEL 0823-51-2173